

皿倉登山鉄道株式会社

皿倉登山鉄道株式会社

I 法人の概要（平成 27 年 4 月 1 日現在）

1 所在地

北九州市八幡東区大字尾倉 1481 番地の 1

2 設立年月日

昭和 32 年 3 月 1 日

3 代表者

代表取締役社長 白杉 優明（平成 27 年 6 月 29 日就任）

4 資本金

10,000 千円

5 北九州市の出資金

10,000 千円（出資の割合 100%）

6 役職員数

	人 数			
	合 計	うち本市からの派遣	うち本市退職者	うちその他
役 員	11 人	0 人	1 人	10 人
常 勤	1 人	0 人	1 人	0 人
非常勤	10 人	0 人	0 人	10 人
職 員	6 人	0 人	1 人	5 人

7 市からのミッション

本市の代表的な観光地の一つである皿倉山山頂への唯一の公共交通手段である皿倉山ケーブルカー等を運行することで、産業観光や夜景観光の誘致など皿倉山周辺地区への本市の観光戦略の一翼を担う。

II 平成 26 年度事業実績

当社は、皿倉山においてケーブルカー及びスロープカー施設を市から借り受けて運行している。あわせて皿倉山頂展望台の管理運営業務等を市から受託している。

平成 26 年度は、ホテルへの優待券配布、福祉施設団体・保育所等に対する無料送迎サービス、旅行社等への売り込み・連携、夏のビアガーデンを始め四季折々のイベントの実施及びマスコミ・雑誌等への積極的な PR 活動を行う中で、集客対策に努め、皿倉山の賑わいを創出した。

1 輸送人員

輸送人員は、繁忙期の 7～8 月の記録的悪天候や 10 月の 2 週末連続の台風襲来等年間を通じて特に土日祝日に雨天が続いたことなどにより、団体をはじめ全般的に輸送実績が前年を下回り、ケーブルカーは前期比-2 万 8 千人、13.8%減の 17 万 6 千人、スロープカーについては前期比-2 万 4 千人、13.9%減の 152 千人となった。

2 営業損益

営業収益は、1億1,909万円（前期比2,083万円減）となった。

営業費は1億1,029万円（前期比949万円減）となり、当期の営業損益は879万円（前期比-56.3%・1,134万円減）の黒字になった。

3 経常損益

上記営業損益に営業外損益を加えた当期の経常損益は、1,124万円（前期比-52.4%・1,238万円減）の黒字となった。

4 当期純損益

上記経常損益から特別損失及び法人税等を差し引いた当期純損益では、前期比1,238万円減の1,018万円の利益を確保した。

Ⅲ 平成 26 年度決算

1 貸借対照表

平成 27 年 3 月 31 日現在 (単位：円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	84,153,214	流動負債	15,245,566
現金及び預金	74,496,143	買掛金	6,400
未収運賃	53,000	次期返済予定の長期借入金	5,099,999
未収入金	3,437,671	未払金	4,185,225
商 品	596,407	預り金	40,002
貯 蔵 品	5,569,993	仮受金	39,540
		未払法人税等	1,059,000
		未払消費税等	4,041,400
		賞与引当金	774,000
固定資産	9,960,497	固定負債	72,156,010
鋼索鉄道事業固定資産	7,622,811	長期借入金	71,600,010
その他事業固定資産	2,275,106	退職給付引当金	556,000
投資その他の資産	62,580		
出 資 金	10,000	負債合計	87,401,576
長期前払費用	52,580	(純資産の部)	
		株主資本	6,712,135
		資本金	10,000,000
		利益剰余金	▲ 3,287,865
		(その他利益剰余金)	▲ 3,287,865
		繰越利益剰余金	▲ 3,287,865
		(うち当期純利益)	10,179,283
		純資産合計	6,712,135
資産合計	94,113,711	負債・純資産合計	94,113,711

2 損益計算書

自 平成 26 年 4 月 1 日

至 平成 27 年 3 月 31 日 (単位：円)

科 目	金 額	
鋼 索 鉄 道 事 業		
営 業 収 益	80,081,693	
営 業 費	89,447,525	
営 業 損 失		9,365,832
そ の 他 事 業		
営 業 収 益	39,005,692	
営 業 費	20,847,236	
営 業 利 益		18,158,456
全 事 業 営 業 利 益		8,792,624
営 業 外 収 益		2,848,000
受 取 利 息 及 び 配 当 金	28,534	
雑 収 入	2,819,466	
営 業 外 費 用		402,341
支 払 利 息	335,022	
雑 支 出	67,319	
経 常 利 益		11,238,283
税 引 前 当 期 純 利 益		11,238,283
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税		1,059,000
当 期 純 利 益		10,179,283

IV 平成 27 年度事業計画

当社は平成 22 年度より「経営改善計画」に基づき、配置人員・組織・保守管理委託等の見直しや減資によるコスト縮減、市への資産譲渡による減価償却費の軽減、営業強化による収益の向上などに取り組み、平成 22 年度は純損益が黒字に転じ、平成 23 年度は営業損益及び経常損益ともに黒字に転じ、当初予測していた平成 23 年度の資金ショートという最悪の事態は回避することができた。

また、平成 23 年度は減資の実施により 16 億円を超える累積損失を一掃したが、新たに市への資産譲渡を前提とした鋼索鉄道事業の資産に対する減損処理を実施したことにより、前期まで債務超過となっていたが、当期にこれを解消した。

累積損失については、前期の 1,347 万円から当期は 329 万円に圧縮され、さらに来期は、営業損益及び経常損益ともに当期よりも黒字幅は拡大することが予測され、解消される見込みである。

平成 27 年度は、利用客 20 万人の大台を目指してさらに経営改革を推し進め、経営の効率化・財務の安定化、利用者サービスの向上、皿倉山の観光振興に努めていき、ケーブルカー及びスロープカーの運行にあたっては、安全を第一に、良質な運行サービスを提供することとする。そのために、以下の項目について重点的に取り組む。

1 「経営改善計画」の推進と組織風土の改善

経営改善計画に基づき、効率的・適正な運行・業務執行体制を確立するとともに、マーケティング戦略に基づき平成 30 年度利用客 25 万人を目標に中長期的視点に立った経営を推進する。

また、「管理」から「お客様本位」「経営」への意識改革を図るため、OJT や幹部会議、運転会議、お客様ご意見箱、従業員提案制度及び勤務評定制度等による自律的改善と風通しの良い職場づくりを推進する。

2 安全運行遵守

「27 年度無事故達成」をスローガンに、①安全意識醸成、日常的な現場巡視による実情の把握と業務マニュアルの実践・遵守の徹底、②車両、運転施設の徹底的な点検、整備の実践、③同種事業や関連会社との情報交換会などの研修を通じたスキルアップを図る。

3 コスト縮減

前年度に引き続き、運行体制の効率的かつ適正な見直しを行うとともに、1 年点検項目等保守管理委託契約の見直しやイベントの効率的執行と費用対効果の改善など、徹底的なコスト縮減に努める。

また、スロープカー自動券売器の導入など業務の効率化に努める。

4 増客、増収対策

利用客 20 万人を目標に、以下の事業に取り組む。

(1) 恋人の聖地への参画

全国ブランドの恋人の聖地プロジェクトに参画し、全国に皿倉山と夜景の魅力を発信する。また、併せてケーブルカー神社を設置して恋人の聖地とのタイアップによる話題作りを行う。

(2) イベント等企画事業

皿倉山の知名度の向上と環境学習・レジャースポットとしての定着を目指し、皿倉山の特性・優位性（夏は涼しい、景色、夜景、四季の変化）を活かすとともに、イベントを体系的・連続して実施することにより、認知度の向上と費用対効果の改善を図る。

毎年マスコミにも大きく取り上げられ好評の「星空ビアガーデン」や「森のがっこう」「観望会」「サタデーナイト連続ライブ」「ミュージックフェスタ（バンド大集合）」「仲秋の名月鑑賞会」「クリスマスライブ」「バレンタイン大作戦」等好評のイベントや、秋田大学と連携した市民向けの「星空案内人検定講座」を前年度に引き続き実施する。

また、イベントの実施にあたっては、市・区役所及び帆柱自然公園愛護会、地域団体等との連携をより深めていく。

(3) 集客・広報の取り組み

利用が定着した無料送迎サービスやホテル優待を継続するとともに、ホテルとの連携により宿泊パック商品等の普及を促進する。また、県内小学校を対象に遠足・社会見学先として誘致する。さらに福岡市へのPRの強化や実績の上がりつつある韓国・台湾・香港等外国人客の取り込みのために商談会への参加など現地旅行社との連携を更に強化する。

CATVやラジオ番組CM提供、JR小倉駅やリバーウォークに加え福岡市天神の街頭ビジョンへの広告掲示とともに、ダイレクトメール、新聞、テレビ、情報誌、市広報紙のほか、ラジオ、インターネット等各種メディアへのイベント・営業情報等タイムリーで積極的なPRを行う。また、県内及び九州・山口各県のJR主要駅へのポスター掲示や街頭宣伝を実施する。

5 乗客サービス向上

お客様ご意見箱の設置をはじめ、イベントの際のアンケートなどにより、顧客ニーズを的確に把握しサービスに反映するとともに、従業員全員による「笑顔で心からのおもてなし実践」を、日常業務や接遇研修の中で指導徹底していく。

6 名称変更

中長期的なPR戦略とブランド確立のため、施設名「帆柱ケーブル」及び会社名「帆柱ケーブル株式会社」を、27年4月1日から、施設名「皿倉山ケーブルカー」及び会社名「皿倉登山鉄道株式会社」に改める。

V 平成 27 年度予算

1 予定損益計算書

自 平成 27 年 4 月 1 日

至 平成 28 年 3 月 31 日 (単位：千円)

科 目	金 額
鋼 索 鉄 道 事 業	
営 業 収 益	92,705
営 業 費 用	92,637
営 業 利 益 (▲ 損 失)	68
そ の 他 事 業	
営 業 収 益	44,711
営 業 費 用	27,142
営 業 利 益 (▲ 損 失)	17,569
全 事 業 営 業 利 益 (▲ 損 失)	17,637
営 業 外 収 益	2,362
営 業 外 費 用	401
経 常 利 益 (▲ 損 失)	19,598
特 別 利 益	0
特 別 損 失	0
税 引 前 当 期 純 利 益 (▲ 損 失)	19,598
法人税、住民税及び事業税	1,059
税 引 後 当 期 純 利 益 (▲ 損 失)	18,539

VI 役員名簿等

1 役員名簿

平成 27 年 7 月 1 日現在

役職名	氏名	備考
代表取締役社長	白 杉 優 明	
専務取締役	欠 員	
取締役	柴 田 邦 江	北九州市総務企画局長
〃	小 松 真	北九州市財政局長
〃	工 藤 一 成	北九州市保健福祉局長
〃	西 田 幸 生	北九州市産業経済局長
〃	横 矢 順 二	北九州市建設局長
〃	窪 田 秀 樹	北九州市八幡東区長
〃	古 川 義 彦	北九州市八幡西区長
〃	垣 迫 裕 俊	北九州市教育長
監査役	奥 鶴 雄	公認会計士
〃	梅 本 浩 史	北九州市産業経済局観光にぎわい部長

2 市との特命随意契約の状況（平成26年度実績）

市からの特命随意契約による委託の状況			左のうち外郭団体からの再委託の状況				
委託業務名	委託金額 (千円)	特命理由	再委託の 業務内容	委託金額 (千円)	契約相手	契約方法	特命随意契約の 場合その理由
皿倉地区観光振興事業業務委託	21,908	参加者の有無を確認する公募を実施した結果、参加者がなく、当該業務を履行可能なものが1者しかいないことが確認されたため。	館内清掃	580	社会福祉法人北九州身体障害者福祉事業協会	随意契約 (特命)	障害者優先調達推進法に基づく優先発注のため。
			浄化槽保守	469	株式会社柁組	随意契約 (特命)	山上という寒冷差が大きい環境で、夜間を含め臨機応変に緊急対応できる能力を有するため。
			昇降機設備保守	1,334	ダイコー株式会社	随意契約 (特命)	対象設備の技術情報を保有する同社しか、速やかな故障等への対応ができないため。
			自家用電気工作物保守	324	中原電気管理事務所	随意契約 (特命)	他の電気動力設備の保守管理と一体的に実施することで、円滑な業務の実施が可能であるため。
			消防設備保守	88	株式会社東和防災システム	その他	少額随意契約(1件5万円以下) 2件
帆柱ケーブルオーバーホール等業務	12,744	参加者の有無を確認する公募を実施した結果、参加者がなく、当該業務を履行可能なものが1者しかいないことが確認されたため。	オーバーホール等業務のうち、作業に専門的な設備・施設が必要な部分	2,516	日本ケーブル株式会社	随意契約 (特命)	同社が製作・納品したケーブルカー施設で、業務実施にあたっては特殊な専門知識や技術が必要とし、また、作業を実施するための専門的な設備・施設も備えている唯一の業者であるため。
			オーバーホール等業務のうち、作業に専門的な設備・施設が必要な部分	5,307	株式会社嘉穂製作所	随意契約 (特命)	同社が製作・納品したスロープカー施設で、業務実施にあたっては特殊な専門知識や技術が必要とし、また、作業を実施するための専門的な設備・施設も備えている唯一の業者であるため
			保守点検業務に必要なケーブル管理道の階段部の補修	4,104	日鉄住金テックスエンジ(株)	随意契約 (特命)	同社は、開業当時の軌道敷設業者であり、軌道に付随した管理道の補修整備において、最も専門的技術及び知識を有している。
合計	34,652		合計	14,722			